

神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所保健課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

結核

結核を含む感染症は感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)に基づき、医療機関からの発生届の情報が国のサーベイランスシステムに登録され、それにより、日本の感染症の発生動向調査が実施されている。令和 7 年 8 月、2024 年の「結核登録者情報調査年報」が厚生労働省から発表され、全国の結核罹患率は 8.1 と低蔓延状態を維持しているがほぼ横ばいであった。

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095_00016.html)

神戸市の 2024 年の結核登録者情報調査年報について、全国と比較して説明する。

1. 結核罹患率(人口 10 万人に対する新登録結核患者数)

2024 年の結核罹患率は神戸市では 10.1 と 2023 年よりは低下したが、人口の減少もあり、罹患率 10 未満の低蔓延地域とはならなかった。市内でも区により罹患率の差はあり、最も罹患率が高いのは長田区の 25.9 で、次いで兵庫区 20.9、中央区 10.7 で、3 区(中央・兵庫・長田)の罹患率が高い傾向は続いているが、それ以外の区は 10 未満となっている。(表 1、図 1)中央 3 区は外国出生者が多く居住し、人口密度が高いことは変わらないので、他の区より罹患率の高い状況は続くと考えられる。また、高齢者の結核発病を喀痰検査や胸部 X 線検査で適切に発見し、今しばらくは患者数が増加しても、検査を勧めて早期受診・早期発見に努め、感染

の連鎖を断ち切りたい。

2. 新登録結核患者数(1 年間に患者として届出られ登録された患者数、再治療を含む)

新登録結核患者数は全国では 10,051 人で前年より、45 人(0.4%)減少している。神戸市では 151 人で、前年より、19 人(約 13%)減少した。外国生まれ、特に日本語教育機関への留学生が増加し、2021 年 2022 年は各 12 人であった外国生まれの結核患者が 2023 年には 25 人、2024 年は 23 人と増加している。70 歳以上の高齢者については 80 代が最も多く 53 人、70 代が 26 人、90 歳以上が 22 人で、全体の 66.9%を占めている。新登録結核患者の診断のきっかけは他疾患で入院中・通院中に結核が発見される場合が全体の約 40%を占め、他疾患で治療中の場合にも結核を発症する可能性があることを認識しておく必要がある。(表 2、図 1)

3. 喀痰塗抹陽性肺結核患者数及び罹患率(肺結核患者のうち、喀痰をガラス板に塗り顕微鏡でみて菌がみつかった患者(菌量が多い、他人への感染性が高い)数、及びその人口 10 万人に対する罹患率)

喀痰塗抹陽性肺結核患者数は全国で 3,352 人、罹患率 2.7 で、神戸市では 48 人、罹患率は 3.2 である。2023 年に比し 20 人減少し、罹患率も 4.5 から 3.2 に減少、新登録患者に占める割合も 31.8%と減少した。感染拡大防止には、喀痰塗抹陽性になる前に患者を発見し治療を開始することが重要で

あるため、喀痰検査の実施を励行したい。
(図2)

4. 結核菌の感受性検査結果

結核菌は、薬剤耐性が誘導されやすく、3～4剤の多剤併用療法が標準治療である。主要な薬剤のINH,RFPの2剤が耐性であれば多剤耐性結核(MDR)である。新登録肺結核培養陽性患者は全国で6,423人、うち、薬剤感受性結果が判明しているのは4,514人、MDRは45人(約1%)、うち22人が外国出生患者であった。神戸市では培養陽性患者85人、MDRは1人のみで外国出生者であった。治療歴はなく、DLM, BDQ, LZDなどで治療され、回復傾向である。

5. 年齢階級別新登録結核患者数(図3)

新登録結核患者を年齢階級別にみると、70歳以上は全国では6,084人で60.1%、神戸市では101人で66.9%をしめる。80歳以上は全国では前年より490人減少して4,295人(42.7%)、神戸市では12人減少して75人(49.7%)であった。70歳以上の結核患者は合併症や年齢による免疫力の低下により発病していると考えられ、咳・痰などの呼吸器症状より、何となく元気がない、食欲が低下してきたなどの症状が結核のはじまりのことがある。

6. 小児結核(0～14歳の新登録結核患者)

小児結核患者数は全国30人、前年から7人の減少となったが、1人だけだが、重症の粟粒結核があった。神戸市の小児結核は2017年に3人、2018年・2019年には0人、2020年に2人、2021年に1人で2022年～2024年は0人であった。このまま0更新できるとよいが、感染源となる大人の結核を早期発見・早期治療することが重要である。

7. 外国生まれ新登録結核患者数

全国では前年から361人増加し、1,980人、20代が1161人となった。神戸市では23人、全新登録結核患者の15.2%に上昇した。20代の新登録結核患者15人全員が外国生まれであった。近年、神戸市内での住民登録が急増しているネパール・ミャンマーは

結核罹患率が高い国で、日本語教育機関などの留学生の中から、2024年10人発病した。入国2か月以内の健診でも患者が発見されており、入国前結核スクリーニングが本格的に稼働してきたら、入国2か月以内の患者は減ると期待される。しかし、結核は潜伏期間が長いいため、入国後の健診の受診勧奨は引き続き必要で、同時に有症状時の受診勧奨も必要である。

8. 潜在性結核感染症(結核菌に感染しているが、症状・所見はなく発病していない状態: Latent Tuberculosis Infection LTBI)治療が必要な例のみ届出る。

全国で5,967人、前年より934人増加、神戸市では94人で、前年より46人増加した。生物学的製剤などの適応疾患が増加しており、それらの使用時にLTBI治療が必要となる人が多く、年齢も合併症の多い60歳以上が59人で62.8%を占めている。(図4)

2021年10月18日の医療基準の改定により、INH, RFP2剤で3～4か月というレジメンが追加承認された。RFPは薬剤の相互作用が多いため、他の薬剤を服用していない若年者のLTBI治療に使用、治療完了に導いている。

表1 罹患率(人口10万人あたり)

年	2022	2023	2024
神戸市	9.8	11.3	10.1
東灘	12.7	10.0	7.1
灘	11.7	5.9	5.9
中央	7.4	12.1	10.7
兵庫	12.7	19.1	20.9
北	8.2	8.3	9.3
長田	17.0	21.5	25.9
須磨	9.6	14.8	6.5
垂水	9.0	8.2	8.7
西	5.5	10.8	7.8

2020年は国勢調査の人口集計値で計算

2021・2022年は統計こうべの10月推定人口で計算

表 2 新登録患者数(人)

年	2022	2023	2024
神戸市	148	170	151
東灘	27	21	15
灘	16	8	8
中央	11	18	16
兵庫	14	21	23
北	17	17	19
長田	16	20	24
須磨	15	23	10
垂水	19	17	18
西	13	25	18

図 1

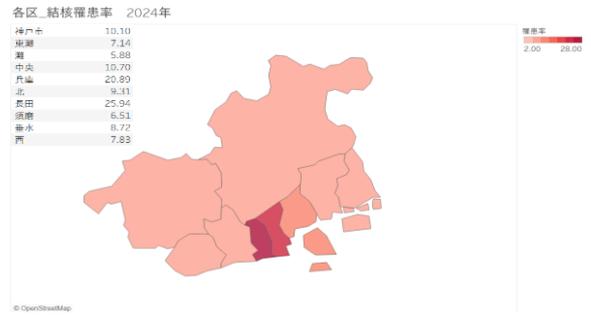


図 2

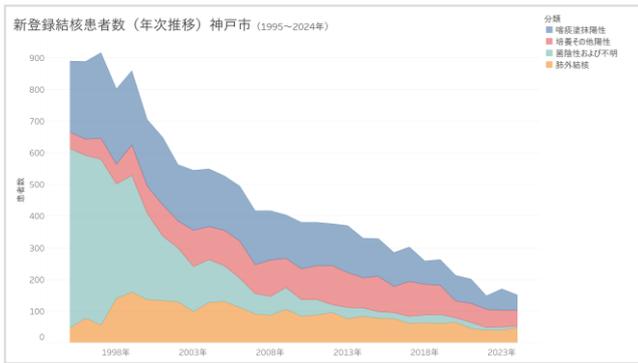


図 3

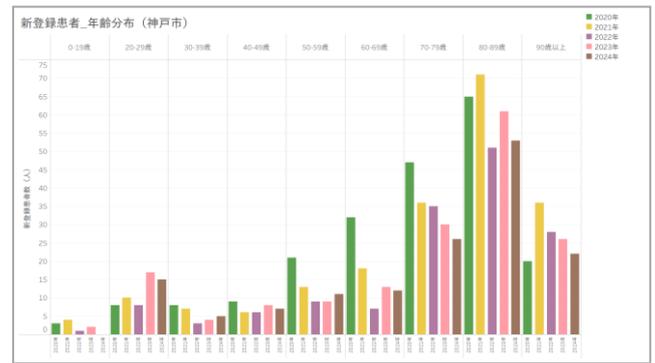


図 4

